



神社に行くと、参道の両脇で迎えてくれる狛犬。そんな身近な存在である狛犬について、その歴史や、市内の貴重な狛犬達をご紹介します。

狛犬の起原は、奈良時代に仏像と一緒に日本に伝わった、「獅子」だといわれます。



▲法隆寺金堂壁画（イメージイラスト）
供物台の前に1対の獅子が描かれていたようです

平安時代になると、天皇や皇后の御帳台のたれ布の裾を押さえるため像として置かれるようになります。

それが神社に持ち込まれ、神を護る存在として広まります。

2体のうち1体の、向かって左側が「狛犬」となるのも平安時代です。これは舞楽の「左方舞（唐楽）」と「右方舞（高麗舞）」の影響といわれ、「狛」は「高麗」のことで、「蜀犬」という、狆の祖先犬がモデルという説が有力です。

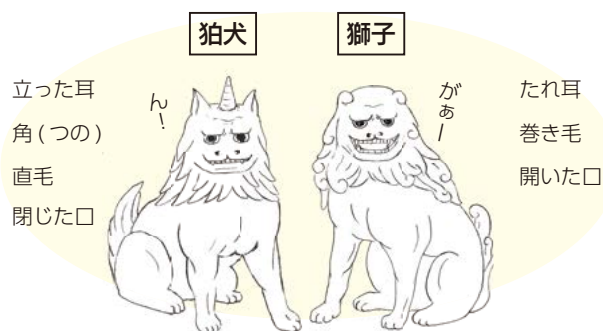
※「こうらい」とも読む



▲御帳台と狛犬
（イメージイラスト）



○狛犬と獅子の違い



古い時代の狛犬は、狛犬と獅子がはっきり違う姿でした。また、色も金や銀に塗られ、社殿内を飾る芸術品でもあったのです。

○市指定文化財の狛犬たち

鎌倉時代



▲愛宕神社（長倉）の狛犬

市内でも最も古く伝統的な姿の狛犬。筋骨隆々で力強い表現がこの時代の特徴。

室町時代（1524年頃）

デフォルメされた表現が増える時代。愛嬌のある表情が印象的で、狛犬に角がない。たてがみは違いがある。



▲佐伯神社（野口）の狛犬

12月21日まで!



室町時代（1557年頃か）

丸みのある柔らかいフォルムが可愛い。たてがみや耳に違いがあります。

江戸時代頃から、社殿外の参道に置かれるようになり、庶民にとって身近な存在になっていきました。そして丈夫な石造りが主流になります（陶製などもある）。また、2体とも獅子の姿が多くなっていき、近年見られる狛犬は、阿吽の口以外に違いがありません。



▲高部地区 諏訪神社の狛犬

皆さんの近くの狛犬は、どんな姿をしていますか？よかったら見に行ってみてね！

【参考文献】

平成 23 年『茨城の狛犬』茨城県立歴史館

（歴史民俗資料館 中林香澄）